



「わたしの平和宣言」

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

(2000年「平和の文化国際年」に
ユネスコが決定)

平和への思い、力いっぱい

八年目の平和の鐘事業

六十二回目の終戦記念日の八月十五日、日本各地のユネスコ協会は、この日を中心に世界平和を祈念して一斉に「平和の鐘」を撞きます。今年は全国七十のユネスコ協会が参加しました(昨年は約六十)。

今年も広島ユネスコ協会は、八月十五日、炎天下、平和公園の平和の鐘の鐘楼前で集いを開



8月15日正午、広島大学附属高校ユネスコ班の村澤希世さん・松下英樹さん、北川建次広島ユネスコ協会会長が力強く平和の鐘を。

ユネスコ協会の高橋昭博副会長が主催者を代表して参加したみなさんへ挨拶。次いで第一回平和の鐘以来毎年継続している韓国・大邱ユネスコ協会と当協会と

き、原爆をはじめ戦争で逝った人々を慰霊し、アジア諸国と世界に対して犠牲と苦難を強いた戦争を反省して不戦を誓うと共に核兵器廃絶と世界平和を祈りました。

また、例年平和の鐘集会の時間帯に平和公園を訪れた外国の方に声を掛けて集会に参加していただき、スピーチやインタビュのコーナーでご登場願っています。今年もアメリカとイタリアの人の参加があり、国際豊かな会となりました。アメリカ人男性は、永田龍男常任理事の通訳を通じて次のようなメッセージを述べました。

「息子、妻と共に来日しました。長野県で開かれた和太鼓の大会に息子と出演するためです。息子が八月十五日の広島を見せたかったのです。『過去の過ちに学ばない者は未来において誤りを犯す』ということばがあります。私たちはヒロシマに魅きつけられて参りました。」

私どもに大きな感激でした。日本の旅行ですばらしいスーヴェニアをいただきました。感謝しています。」

正午、報道機関各社のカメラの放列に囲まれて、北川建次会長と高校生二人が打鐘、同時に参加者全員による黙祷を捧げました。黙祷に続いてユネスコ会員、平和公園を訪れた市民、観光客ら百五十人が鐘を撞きました。(常任理事・亀井章)

原爆ドーム景観問題、その後

原爆ドームの景観保護のために当協会は、原爆ドームの景観を守る会と共に保護促進のために次の取り組みを行いました。一つは、広島市景観審議会委員のみなさん宛に原爆ドーム隣接地の高層マンション建築に関して当協会と景観を守る会がこれまで発行してきた広島市への要請書、イコモス国際委員会発行の勧告文書、国連ユニタール主催討論会の意見集などを送付しました。審議会委員(十四名)は学識経験者(八名)などで構成されています。

また、広島市議会各会派へ前記の資料を添え景観保護の促進に努められるよう要請しました。

(常任理事・亀井章)

第10回広島ユネスコ活動奨励賞受賞団体と活動内容

部門	学校・団体(代表者)	分野	活動内容	対象国・地域	活動開始
学 校 部 門	広島市立畑賀小学校 (森宗寿博)	国際理解 国際交流	外国人の就労で児童の増加による学校での日本語指導、外国人と地元住民とが触れ合い理解を深めるためにPTAや社会福祉協議会が交流促進行事を実施	地域に在住する外国出身者(ブラジルなど)	1991
	広島市立翠町中学校 (光成謙二)	平和教育 国際理解	第三国民学校の原爆犠牲者の慰霊祭、被爆実態を明らかにする運動、平和交流会などをおしての平和学習。身近な交流(留学生など)により他国の文化や習慣に触れ、理解を深める学習。	対象国・地域は限定しない	1973
	広島大学附属東雲中学校 (林 武広)	国際理解 国際交流	エクスプローリス・ミドルスクールとの姉妹提携による相互訪問交流。授業参加、ウエルカムセレモニー・ホームステイ・文化交流など	アメリカ・ノースキャロライナ州ローリー市	2002
	広島県立広島井口高等学校 (金岡俊信)	国際理解 国際交流	姉妹校との相互ホームステイによる語学研修をおしての交流で異文化理解とコミュニケーション能力を高める。	オーストラリア・タスマニア州	1998
	広島文教女子大学附属高等学校 (田中豊貴)	国際理解 国際交流	外国訪問(修学旅行・和太鼓公演など)をおしてホームステイや異文化交流で、他国の自然・歴史・文化・生活習慣に触れ多様性や普遍性について理解する。	韓国・カナダ・ニュージーランド・タイ王国など	1985
社 会 部 門	おひさまネット (三堂真起子)	国際協力	ケニア・ナイロビの養護施設マトマイニチルドレンホームの支援活動。観音台公民館でボランティアグループを結成。	ケニア・ナイロビ	1995
	佐東にほんご教室 (木原昌子)	国際理解 国際交流	近隣に移住する外国人に日本語(週1回)指導、日本文化紹介。他に地域の各種行事、小・中学校の国際理解授業への参加などの活動。	地域に在住する外国出身者	1997
	日本ガラパゴス研究会 (重中義信)	国際交流 国際協力	ガラパゴスにおける珍しい動植物の調査を行うと同時に民宿における宿泊を体験し、島民の生活状況なども知る。また、ガラパゴスの保全と啓発活動。	エクアドル共和国・ガラパゴス諸島	2002
	広島ジュビター少年少女合唱団 (西 卓)	国際理解 国際交流	合唱を通じ、音楽と平和を愛するひとつづくりを目的とし、来日した合唱団や海外での交歓演奏活動、ホームステイなどをおしての国際理解・交流。	アメリカ・ヨーロッパ・中国・台湾など	1968
	BONDHU (富永典子)	国際協力	バングラデシュの現地の状況を見て、生活水準の向上を願い、貧しい地域の子どもたちに無料で通える幼稚園(プレスクール)を作り、子どもたちに教育の機会をつくる活動。	バングラデシュ・コックスバザール地区	2004

十回目を迎えた奨励賞

受賞十団体が決定

広島ユネスコ協会再結成二十

五周年を記念して始めた「広島ユネスコ活動奨励賞」事業は、一九九八年度にスタートし、今年度で第十回目を迎えました。

ユネスコ精神に基づいて主として国際理解、国際交流、国際協力を進める活動の育成と推進に資することを目的として、学校、地域の優れた活動を顕彰し

今年度は、九月十五日から十月三十一日まで募集し、十一月十六日、広島国際学院立町キヤ

ンパスで審査会(審査委員長・中山修一日本ユネスコ国内委員)を行った結果、学校・社会両部門あわせて別表のとおり十団体が選ばれました。

応募総数はこれまでのの中では多いほうで、それぞれの活動内容に特徴があり、今後の活動に大きな期待がよせられているところです。

これで見事な団体数は、学校部門では小学校十八校、中学校七校、高等学校十三校。社会部門は三十四団体となります。

受賞団体には、一月二十六日



ユネスコ新春フェスタ2008

と き／2008年1月26日(土)
午後2時から午後5時45分まで
ところ／広島鯉城会館5階
(広島県民文化センター内)
(広島市中区大手町一丁目5-3)
電話245-2322
内 容／第一部 広島ユネスコ活動奨励賞表彰
(講評、賞状・賞牌贈呈、活動紹介など)
第二部 二胡演奏&トーク
ゲスト：二胡奏者 趙 荣春さん
《記念パーティー》午後4時15分

なお、広島ユネスコ協会では、ユネスコ活動奨励賞について、これまでの十回実施の経過を振り返り、今度どうあるべきかを検討することになっています。

(写真)第九回奨励賞表彰風景
北川会長からひろしま・カンボジア市民交流会に表彰状

民間ユネスコ運動の日 記念行事を開催

日本ユネスコ協会連盟は、ユネスコ運動をより広く市民やマスコミにアピールすることなどを目的に、一九四七年に世界で初めて民間ユネスコ運動が日本で始まった日を記念して、七月十九日を「民間ユネスコの日」としています。当協会もつぎのとおり記念事業を開催いたします。

◇七月九日(二十三日)「原爆ドーム世界遺産登録十周年記念特別展」及び「日本の世界遺産登録展」

◇七月二十八日／記念セレモニー(北川建次会長あいさつ、新川貞之常任理事の講演「往時の広島ユネスコ運動」)

来年五月、広島市で開催される憲法九条世界会議、広島集会の実行委員会結成総会出席の呼びかけがあり、平和部会で検討し、十一月二十三日、広島弁護士会館で開かれた開催実行委員会に高橋昭博副会長(平和担当)を派遣しました。なお世界会議の呼びかけ人は浅井基文氏(広島市平和研究所長)、井上ひさし氏(作家)ほか。

憲法九条世界会議、来年広島開催

第四次大邱訪問

深まった友好の絆

広島ユネスコ協会の第四次大邱訪問団（藤井正一団長はじめ七名）は十月十一日から十四日まで韓国大邱広域市（以下大邱市）を訪問し、韓国UNESCO大邱協会（以下、大邱協会）と交流を深めてまいりました。

今回の訪問は大邱市と大邱市が一九九七年五月二日に姉妹都市提携して、十周年の節目を迎えることから「カラフル大邱フェスティバル」に合わせて、大邱へ市民訪問団を派遣することになり、その中に広島ユネスコ協会は加わったものでした。

この「広島・大邱（韓国）市民訪問団」は秋葉忠利市長、藤田博之市議会議長ら代表団のほか、諸木十二神祇神楽など芸術団や経済ミッション、市民交流団、公募で参加された市民、総勢二百八名でした。

訪問第一日目

十月十一日
（木）広島空港を

正午に出発し、午後一時に大邱国際空港に着きました。空港には大邱協会孫基洙会長ほか役員三名が迎えにいられました。

その日はふれあい訪問団と一緒に行動し、二〇〇二年に開催された日韓ワールドカップのワールドカップサッカー場や、漢方薬材を展示している薬市展示館を見学いたしました。夕方には大邱市主催による、姉妹都市提携記念夕食会が開催され、ふれあい訪問団全員と大邱協会の徐千済前会長、孫会長、大邱市関係者が招待されての盛大な記念夕食会でした。

第二日目

十月十二日（金）
午前中、孫会長



以下大邱協会役員案内でソウルの江南（カンナム）、大邱市寿城区三徳洞にある三徳小学校を訪問しました。李ウエソン校長が迎えられ、相互に自己紹介、名刺交換、広島市立古田小学校・高須小学校・古田台小学校の児童画約六十枚の贈呈、日本の童謡CDセットの贈呈をしました。その後、校内見学や授業参観をいたしました。授業では視聴覚機器（IT機器）を活用され、児童は元気に勉強していました。児童が元気良くあいさつしてくれたのが印象的でした。

正午前、今年五月に開館したバングチャ鎗器博物館を訪れ、食器や調理器具、楽器のドラ、ケンガリなど銅製品を製造して



きた歴史を学びました。

夕方、大邱最大の市民まつり「カラフルフェスティバル」の開会式に参加いたしました。広島市や中国青島市、寧波市、ベトナム国ダナン市も参加し、祝賀セレモニーでは各都市の自慢の芸術披露が行われ、大邱市民も喜んでいました。

その夜、大邱ユネスコ協会主催の歓迎夕食会が開催され、孫会長以下役員七名が出席され、自己紹介、記念品贈呈の交歓・懇談を行い、旧交を温めました。

第三日目

十月十三日（土）
には孫会長以下大

邱協会役員案内により韓国の歴史を保存している安東を訪れ、僧侶が修行したといわれる屏風書院、仮面博物館の見学、そして、河回村（民族村）へ行き、昔ながらの両班住宅や草葺民家など古き家々を見学、ながら朝鮮王朝時代を旅しているようでした。夜は南山のすきやき料理で大邱最後の夕食会をなごやかに、今後の両ユネスコ協会の姉妹提携をどのような活動にしたらよいかを意見交換をいたしました。

第四日目

十月十四日（日）
正午、孫会長以下

大邱協会役員に見送られて、ふれあい訪問団員とともに大邱国際空港を飛び立ち、無事午後一時五分に広島空港に着陸いたしました。

× × ×

今回、短い訪問期間でしたが、孫会長以下大邱協会役員の方々の熱心な歓迎、もてなしに訪問団員は大変感激し、今後の交流に決意を新たにいたしました。簡単ではありますが、以上、第四次大邱訪問記といたします。

（写真上、三徳小学校李ウエソン校長に広島からの児童画を贈呈。写真下、大邱協会と交流し、旧交を温める。）

（国際交流担当部会）

▼訪問団メンバー▲

団長 藤井 正一

（国際交流担当部会長）

副団長 長船布施夫

（会員）

団員 國田 繁

（常任理事）

団員 岡平 祐次

（常任理事）

団員 政岡 峰子

（会員）

団員 田辺 浩美

（常任理事）

団員 藤井 孝行

（常任理事）

特別寄稿

戦後の民間ユネスコ運動(三)

黎明期の広島ユネスコ運動を中心に

常任理事 宇野 豪

第五回全国ユネスコ運動全国大会

(前号から続く)

〔一九五〇年八月六日・大会行事予定〕

八時…市民広場の平和祭に参加
加

十三時…中央公民館で全国大会
十四時…記念講演会

講師は仁科芳雄、尾高朝雄、
安倍能成の三氏でした。

ところが、この予定は当日朝突然変更、九時から三氏を囲む「ユネスコ研究懇談会」(広大附小講堂)に変わりました。この突然の変更は「その筋」(恐らく進駐軍当局)からの指令と推測されます。こうして、この第五回ユネスコ運動全国大会は残念な幕引きとなりました。

第四回全国ユネスコ

学生協議会の開催

協力会連盟の全国大会と並行して広島学生ユネスコ・クラブを当番団体とする全国協議会が八月三日から八月六日にかけ、



(この時の学生協議会については、『民間ユネスコ運動60年史』45頁をご参照ください)

日本のユネスコ加盟
協力会から協会に

一九五一年六月バリエで行われたユネスコ総会で日本のユネス

コ加盟が承認され、八月の全国大会で、協力会から「協会」に改めることに決定しました。

一九五二年度 ユネスコ・

ゼミナールの全国的展開

日本のユネスコ加盟実現は、ユネスコへの啓発事業を活性化しました。その先端を切ったのが青少年を対象とする「ユネスコ・ゼミナール」で、それを呼びかけたのはユネスコ駐日代表部青少年局でした。

それは全国を七地区に分け、各地区毎に、青年を対象とする一週間の夏期ゼミナールです。

中国四国地区は広島で行われました。七月二十五日開会式、会場は宮島小学校。

このゼミナールに先立ち青少年局は指導者講習会を実施。広島県教委社会教育主事新川貞之氏がこれに参加しました。また参加する青少年の選定は県・市教委、ユネスコ関係団体等により行われました。参加者は各県六・七名で、中国四国地区で計七十二名。ゼミナールのプログラム、運営、講師等については省略することにします。

一九五三年度 広島ユネスコ
ラジオ夏期学校の開設
〔趣旨〕生活を共にするなかでユネスコ運動の目的を青少年に理解させること。

〔主催〕広島県教育委員会

広島中央放送局

広島ユネスコ協会

〔会場〕宮島町・大聖院

〔期日〕七月二十五日から八月六日まで

全期間を四期に分け、一期間は四日とし、各期間・中学生

(男女) 四十名、青年(男女) 三十二名。各郡では各期、中学生十名、青年二名が参加する。全期の参加者は中学生百六十名、青年三十二名が参加。全十六郡からみれば極めて少数です。

その校長は広島ユネスコ協会長・長田新となつていますが、実質的には県教委と広島放送局の計画、運営に任されていたものと思われまふ。プログラムや日程・内容については省略することにします。

一九五三年度 中国
五県ユネスコ講習会

ラジオ学校の実施が発端となり中国地区協議会が結成され、そしてこの講習会がスタート。

〔主催〕日本ユネスコ国内委員会、広島県・市教委、広島ユネスコ協会

〔趣旨〕ユネスコ活動の普及と指導者養成
〔期日〕二月二十五・六日
〔場所〕山陽記念館(広島市)

「ユネスコの月」の諸行事

広島県・市教委、広島ユネスコ協会などにより、十一月を「ユネスコの月」と定めて、ポスター募集、世界名画複製展、ユネスコの講演や映画などを催し、ユネスコの啓発に努めていました。

一九五四年度以降の
広島ユネスコ運動

中国新聞によれば、五四年度の広島ユネスコ協会が関わった事業は、七月の「ユネスコ浮世絵複製展」「ラムサ財団ボスター展」と十一月のユネスコの月間・「国際親善強調ポスター募集」でした。実は前年から中国新聞、県・市教委等共催の「平和問題講座」が開かれ、講師にはユネスコ協会役員も二、三含まれていますが、協会は主催者として参加してはいません。またこの頃から原子力問題の論議が活発となります。そして、それに反して広島ユネスコ運動は衰退の一路を辿ることになったのでした。

おわりに

十分にお伝えすることができないままに、ペンをおく結果となりました。戦後の広島に始まったユネスコ運動の歩みの一端をご理解いただければ幸いです。

大会参加報告

日本ユネスコ運動 全国大会（山口市）

「みんなちがって、みんない
い」今こそめざそう多文化共
生」をテーマに、去る九月一日、
二日、山口市にて開催された全
国大会に参加してまいりました。
広島ユネスコ協会からは、北川、
山本、新川、須山、亀井、井尾、
清水、柴田、梶井（敬称略）の
九名が参加。

今回は、民間ユネスコ運動発
祥六十周年記念と冠しての大会。
会場となった山口市市民会館のロ
ビーには、六十周年を記念して
作られた新しいロゴマークの旗
が並び、新マーク入りのグッズ
も人気。大ホールには、全国か
ら集まった会員と海外からの招
待者、約千人が集い、熱気があ
ふれる中、山口ジュニアオーケ
ストラの見事な演奏で開会しま
した。

今回、山口県出身のユネスコ
事務局長、松浦晃一郎氏が里帰
りされ「民間ユネスコ運動発祥
六十周年に寄せて」と題して特
別講演を。戦後六十年、戦争の
なかった年はない。戦争を防ぐ
ためには貧困をなくさなければ。
現在世界人口の四割が一日二下

ル以下で生活。改善のためには
教育が必要。そのためには、貧
困撲滅は最重要課題。日本国民
はそのことへもっと関心を持っ
て欲しいと、民間ユネスコへの
期待を込めてお話されました。

基調講演では金子みずゐ記念
館館長、矢崎節夫氏が「金子み
ずゐ、心の宇宙」と題して講演。
やさしく語りかける口調で、金
子みずゐの詩の世界を深く読み
解かれ、その奥深いところにそ
んな意味があったのかと感嘆。
相手を見るとき、「私とあなた」
ではなく「あなたと私」の視点
になること。私中心の眼差しを
変えたとき、共に生きていける
こと。そんな「あなたと私」の
視座こそ相互理解を生み、ひい
ては世界平和につながるのだと
感じました。（ユネスコ十一月
号に講演抄録有り。ぜひ一読
を！）また、続いて行われたシ
ンポジウム「多文化共生社会の
実現とユネスコ」では、互敬（お
互いに尊敬すること）、同一点
を採るのではなく、心の中で響
きあうことが大切などの意見が
出され、奇しくもみずゐさんの
詩が訴えるものとの共通点を感じ
ずにはいられませんでした。

湯田温泉にあるホテルで行わ
れたレセプションでは、あふれ
んばかりの人で賑わいました。

夜は宿泊したホテルの屋上にあ
る露天風呂でほっと一息。北海
道からの参加者の方とご一緒に
なり、ユネスコの全国大会で各
地を訪れるのが楽しみと嬉しそ
う。よい楽しみ方だなあと羨ま
しく思いました。

二日目の分科会では、第三分
科会「『ずっと地球に生きる』
ための活動」に参加。中国、韓
国、下関市のESDへの取り組
みが紹介され、特に地球環境問
題は世界共通の課題と認識。こ
れからのユネスコにとっても大
きなテーマだと痛感しました。

来年の開催地は東京。閉会式
で青年部員からの熱烈歓迎エー
ルもありました。ぜひご参加を。

（理事・梶井朝子）

中国ブロックユネスコ 活動研究会（出雲市）

二〇〇七年度中国ブロック・

ユネスコ活動研究会が、去る十
月二十七日から翌日にかけて、
日本ユネスコ協会連盟、中国ブ
ロックユネスコ連絡協議会、出
雲地区・石見地区ユネスコ協会
の主催により、出雲市の島根厚
生年金会館において開催されま
した。当協会からは、北川会長、
井尾、亀井、須山、清水、古田
それに、顧問の伊東広島県ユネ
スコ連絡協議会会長が参加し、
「つなげよう平和の心」地域に

根ざしたユネスコ活動をめざし
て」をテーマに研修を積みま
した。折りしも、石見銀山が世
界遺産に登録されたばかりと
あって、地元のこの研究会への
熱の入れ方も大変強く、九十名
余の参加者があり、賑やかな会
となりました。詳しい日程は、
既にホームページでも紹介して
いますので、省略いたしますが、
今回は、岡山県と地元の高校生
ユネスコ活動班も参加し、若さ
あふれる実践事例の発表やそれ
に対する賞賛や激励、所感など
が活発に発言されたりして、特
徴ある大会となりました。

大会は、日ユ協連野口理事長

の六十周年を迎えた民間ユネス
コ活動の今後についての基調講
演を受け、分科会①世代をつな
ぐユネスコ活動 ②地域に広げ
る世界寺子屋運動 ③世界遺産
と地域の文化財、においてそれ
ぞれ事例研究などが行われまし
た。

若者が集まりにくい現状の中
で高校が拠点となつて様々な社
会活動を展開することにより足
がかりがつかめる、という指摘、
寺子屋運動という地道な活動に
パブリシティを活用したり、少
人数から寄り集まって大きな力
とすることの大切さの確認、さ
らには、世界遺産登録には地元

の努力が必要であり、登録後も
安心することなく、経済の論理
からいかに守っていくかが重要
な課題となるという問題提起が
なされるなど、大変有意義な会
となりました。

最後に、出雲大社本殿を見学
したあと、同神社の社務所議
室に参加者全員が集合して行わ
れた閉会行事において、来年度
の開催地を広島県尾道市とし
ることが発表されました。

なお、この研究会を利用して
開催された中国ブロック協議会
で、次期会長に伊東亮三広島県
ユネスコ連絡協議会会長（当協
会顧問）、副会長に北川建次広
島ユネスコ協会会長が選出され
次年度中国ブロック研究会の尾
道市開催に向けて新たなスター
トが切られました。

（常任理事・古田碩永）



閉会式で就任のあいさつをする
伊東亮三中国ブロック会長
（右は北川建次副会長）

国際交流イベント

《くさぐさNOON》

恒例のべあせろべ2007が去る十月二十八日(日)午前十時から好天の中、中央公園芝生広場で開催されました。

二十四回目を迎えたこの国際交流イベントは、広島に住むさまざまな国籍・文化の人たちが集まり、交流するお祭り、今回も「Dance dance Dance」をテーマにラテン、フラダンス、ソーラン節など、昨年に続く踊りのパフォーマン스가繰り広げられました。

今年は五十三団体が参加し、しかも、フードフェスタとの同時開催で会場一杯、多くの人で賑わいました。

ステージでは、楽器演奏や舞踊、歌などが披露され、ブースでは、世界の国の物産や料理などが紹介されました。

当協会ではブースや広場を利用して、日用品や木の葉などを使った創作教室、わらざうり、竹馬、竹トンボ、ミニ凧、しゃぼん玉、火おこしなどの伝承遊び体験コーナーを設けました。親子で竹や折り紙を使つての工作や火おこしに一生懸命挑戦

したり、人気のしゃぼん玉や竹馬をして一日を楽しく過ごしていました。

(常任理事・國田 繁)

《国際交流・協力の日》

「国際交流・協力の日」は十一月四日、例年どおり国際会議場と周辺広場で開催されました。

国際医療救護活動を展開する医師桑山紀彦さんの、貧困や紛争に揺れる世界の姿を映像と音楽でつづる地球のステージをはじめ、展示・パザー・紹介・発表など多彩な内容でした。広島ユネスコ協会は「展示の部」と「青少年による国際交流・協力活動レポート」を担当しました。

展示の部は、書き損じはがき回収運動で発展途上国の識字教育を支援している「世界寺子屋運動」についての内容で、「アフガニスタンのこどもたちに未来を」というタイトルのパネルを展示しました。

青少年による国際交流協力活動レポートの部では、広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会、広島少年合唱隊、広陵高校、広島国際青少年協会が、団体事業について熱く語り、青少年のパワーを見せつけました。

(事務局長・山本隆信)

日誌

△7月△

28日/第百三十回ユネスコサロン「ヒロシマに想いをよせる美術家たちと広島市の街」美術評論家・竹澤雄三(市民交流プラザ)

28日/「民間ユネスコ運動の日」記念セレモニー 会長あいさつ 「創生期の広島ユネスコ運動」常任理事・新川貞之(市民交流プラザ)

△8月△

30日/機関紙「ヒロシマ・ユネスコ」第六十七号発行

8日/ユネスコアジア執行委員会訪問団受け入れ打ち合わせ 会議 北川会長、中山担当副会長外四名(市民交流プラザ)

17日/教育部会(市民交流プラザ)

30日/前掲アジア訪問団受け入れ打ち合わせ会議 藤井担当部会長ほか(国際会議場)

△9月△

31日/青少年育成部会(市民交流プラザ)

1~2日/第六十三回日本ユネスコ民間運動全国大会in山口 北川会長外八名(山口市)

3~4日/アジア太平洋ユネスコクラブ連盟執行委員会十六名

広島・宮島訪問 受け入れ(平和公園、平和の鐘、原爆の子の像、原爆ドーム、慰霊碑、平和記念資料館) 北川会長外七名

15日/第百三十一回ユネスコサロン「文化遺産/鞆の浦の全容と現状」前野イコモス国内委員長、鞆の浦の自然と環境を守る部会長外(国際学院大学立町キャンパス)

15日/理事会(国際学院大学立町キャンパス)

22日/教育部会

26日/二〇〇八年度中国ブロック研究大会の開催を尾道市サイドへ依頼 県連亀井副会長、永田事務局長、井尾広島ユ協常任理事(尾道市)

△10月△

3日/大邱訪問団打ち合わせ 藤井正一団長外参加者(東野公民館)

4日/国際交流・協力の日実行委員会 山本事務局長(国際会議場)

11~14日/第四次大邱訪問団、韓国訪問

16日/国際交流・協力の日青少年レポート発表打ち合わせ 山本事務局長(国際会議場)

27~28日/二〇〇七年度中国ブロックユネスコ活動研究会 北川会長外五名(出雲市)

27日/中国ブロックユネスコ連絡協議会会長に伊東亮三県連会長(当協会顧問)

28日/べあせろべ 藤井担当部会長外四名(中央公園)

31日/ユネスコ活動奨励賞締切 △11月△

4日/国際交流・協力の日 北川会長外五名(国際会議場)

10日/第百三十二回ユネスコサロン「ガラパゴスの自然と保護活動」日本ガラパゴス研究会会長・重中義信(市民交流プラザ)

10日/理事会(市民交流プラザ)

16日/第十回ユネスコ活動奨励賞審査会 中山修一審査委員長外四名(国際学院大学立町キャンパス)

21日/奨励賞表彰準備会 崎岡担当部会長外三名(市民交流プラザ)

21日/機関紙発行打ち合わせ 山本事務局長外(市民交流プラザ)

23日/「九条世界会議ヒロシマ」実行委員会結成総会 高橋副会長(弁護士会館)

26日/中国ブロック・ユ連協伊東亮三会長(県ユ連協会長) 尾道市表敬訪問(二〇〇八年度中国ブロック研究会開催について)

30日/広報部会